わが街わが故郷

ダイベア株式会社と和泉市

【ダイベア株式会社の紹介】

本社・和泉工場
〒594-1157
大阪府和泉市あゆみ野二丁目８番１号
ＴＥＬ 0725-53-1711（代表）
ＦＡＸ 0725-53-1822
http://www.daibea.co.jp/

1936年の創業以来、転がり軸受の専業メーカーとして、グローバルな視野に立ち、世界トップレベルの技術の研鑽、世界に誇れる商品づくりを目指し、顧客の繁栄と社会の発展に貢献することを目的に企業活動をしています。モノづくりにこだわり「変革・挑戦・情熱」の姿勢でオリジナル技術の確立と優れた生産技術の開発、現場のノウハウを生かした高度な技術力で「薄肉品のダイベア」「特殊品のダイベア」としてお客様に信頼され、成長する企業でありたいと思っています。

「堺から和泉の地へ」

以前堺市にあった本社・堺工場は、建物の老朽化により地震対策等が難しく、加えてスペースが狭く工場内での作業や物流面で大幅に改善する余地が少なく、今後のグローバル競争に打ち勝っていくには不十分な状況でした。また環境面においても周囲の宅地化による工場からの騒音等、近い将来工場の操業問題に発展することも考えられたため、2008年12月この和泉の地への移転を開始し、2009年10月、移転を完了しました。

【和泉市の紹介と歴史】

奈良時代に「和泉の国」の政治を司る国府が現在の府中町に置かれ、平安時代には熊野詣の参詣道である熊野街道が本市を通り『蟻の熊野詣』といわれるほどの賑わいを見せ、今もなお「小栗街道」として当時の面影を残しています。

江戸時代には幕府の天領や伯太藩領となり特産の「和泉木綿」や農業の発展により、めざましい復興を遂げ、明治初年の62村から明治22年には町村制施行により12か村に合併、綿織物やみかんづくりなどの農業で栄えました。

和泉という地名は、「彼国清水多ク出ル処ナレハ、和泉ト号ス、和泉ハ水ノ名ナレバケリ」（「日本得名」より）といわれ古くから清水が多く湧き出たところで、泉井上神社（和泉市府中町）の境内にある「和泉清水」に由来しています。神功皇后が新羅出兵の途中、この地を訪れたところ、地中に波音があり、一夜にして清泉が湧き出たことから、それにちなんで「和泉」と名づけられたと伝えられています。

そして奈良時代に河内国から三郡に分れて「和泉国」が誕生し、和泉の伝統ある地名を引き継いでいます。なお「和泉」という表記は、もとは「泉」一字の地名だったと思われますが、和銅六年（713年）風土記の編纂を命じたのと同時に、諸国の国郡郷名はよき字（文字として美しくよい意味の字）をつけるようにという命が出されました（「続日本紀」）。これを受けて、国郡里名は二字の嘉名をつけることが命じられました（「延喜民部式」）。元来、国郡名などは一字や三字のものもあって不統一だったのを、これによって統一しようというのが意図だったと思われています。このときに、たとえば木は紀伊になったように、泉も和泉というようになったと推定されています。

『市　章』（昭和32年３月制定）

和泉市の「泉」を図案化したもので、明瞭で進展と清浄性が表現されています。

『市の花　水仙（すいせん）』

鎌倉時代に日本ではじめて栽培された地が和泉市だったといわれていることから、市の花となりました。

『市の木　楠（くすのき）』

樹力旺盛にして形態は雄大であり、常緑樹で樹齢は数百年にも達します。歴史的にも有名な槇尾山施福寺や松尾寺にもその巨大な姿があります。

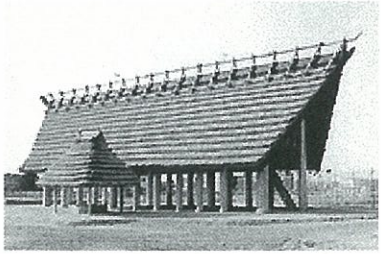
【歴史ロマンあふれる和泉市】

市内には土器、石器、木製品等貴重な文化財が数多く出土した全国有数の弥生時代の集落遺跡である池上曽根遺跡をはじめ、歴史の数々を綴るドラマとロマンがあふれています。池上曽根遺跡は和泉市池上町を中心に南北1.5㎞、東西0.6㎞の範囲に広がる、総面積60万㎡もの規模をもつ、わが国屈指の弥生時代の環濠集落（周囲を溝で囲んだ集落）と知られています。1976年に環濠に囲まれた範囲を中心に、約115,000㎡が国史跡に指定されています。

1995年、集落の中心部で見つかった大型建物（いずみの高殿）は東西19.2m、南北6.9m、面積133㎡と、弥生時代最大級の規模をもつ建物で、地面に掘った穴に直接柱を立てた掘立柱建物と呼ばれるものです。26本の柱で構成され、直径60㎝もある当時の柱の根元が腐らずに17本も残っていました。

建物の南側にある井戸（やよいの大井戸）は、直径2.3mのクスノキの大木を刳りぬいて井筒にしており、刳りぬき井戸としてはわが国最大のものです。発掘されたときもこんこんと水が湧き、二千年間、井戸が生き続けていたことがわかりました。

建物や井戸の周りには、たくさんの石器や土器を埋めた「祭りの場」がつくられ、その隣で



復元された大型建物と大井戸

は青銅器や鉄器を作っていた当時の工房の跡も見つかりました。環濠の周辺には人々の住まいが密集しており、用途によって区切られた集落の姿が明らかになりました。

池上曽根遺跡の調査のもう一つの大きな成果は、大型建物に残されていたヒノキの柱が紀元前52年に伐採されたものであることがわかり、弥生時代中期の実際の年代が初めて明らかにされたことです。それまで考えられていた年代より百年も古くなり、その後の邪馬台国に続く歴史の流れに、大きな一石を投じました。

これらを復元し、二千年前の大集落を復元して史跡公園として公開されています。また当時の生活体験ができる弥生学習館も設置されています。

槇尾山施福寺（まきおさんせふくじ）

西国三十三箇所第４番
和泉西国三十三箇所第１番
西国愛染十七霊場第15番
神仏霊場 巡拝の道 第52番

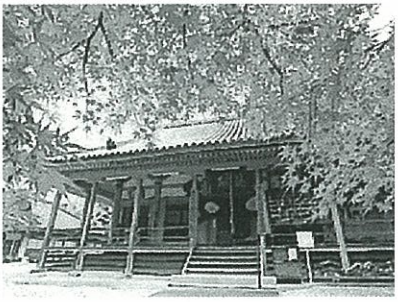
槇尾山の標高491m付近に位置する寺院で、和泉の国の代表的な名刹です。寺宝「槇尾山大縁起」は国の重要文化財に指定され有名です。施福寺は欽明天皇の時代に、天皇の病気治癒の勅願により行満上人によって開かれ、弥勒菩薩を安置したのが草創と言われています。かつては真言宗の寺として栄えましたが、織田信長の兵火に遭い、その後、豊臣秀頼によって再興。さらに徳川家の援助を受け江戸時代初期には天台宗に改宗されました。参道は桜、もみじ等が美しく、山頂からの景観もすばらしく市内屈指の観光の名所となっています。

槇尾山施福寺　本堂

阿弥陀山　松尾寺

開基は672年（天武元年）、役行者が７日間修法し霊木を得て如意輪観音を刻んで安置しその後、越前の泰澄大師（たいちょうだいし）が入山され中興しとされています。

奈良・平安時代には『日本往生極楽記』などに松尾寺にまつわる奇瑞が伝えられており、既に人々に広く知られた寺だったと思われます。



阿弥陀山　松尾寺

南北朝から室町時代にかけ最も栄え、口伝では寺領7000石、寺坊308、僧兵は数千人を数えたと伝わっていますが、これを裏付ける文書は残っておらず、寺領田畑の明細はわかっていません。

和泉市久保惣記念美術館

当社本社・和泉工場のすぐそばに和泉市久保惣記念美術館があります。この美術館は和泉市内で、明治以来綿織物業を営んでこられた久保惣株式会社から、昭和57年（1982）10月に国宝２点、重要文化財28点を含む美術品約500点と建物、敷地、基金が和泉市に寄贈され開館しました。

開館以来、日本、中国を主とした東洋古美術を専門とする美術館として、展覧会や研究などの活動をされています。また新たな作品の蒐集も進み、個人蒐集家からの寄贈も加わり現在の収蔵品は総数約10,000点にのぼります。

また、平成９年(1997)には同社によって新館が寄贈され、翌平成10年(1998)４月に中国工芸品とモネやルノワール、ロダンなどの西洋近代美術の展示会場としてオープンしています。

落ち着いた佇まいは鑑賞の場にふさわしく、日本庭園や茶室を散策しながら名品と出会える美術館として親しまれています。音楽ホール、ギャラリー、創作教室も併設されており、豊かな文化に触れることができます。

和泉市久保惣記念美術館

和泉リサイクル環境公園

また埋立処分場の跡地を有効利用した和泉リサイクル環境公園があります。農場公園エリアはエコロジカルファームとして有機・無農薬を基本とした花の農場で、中央にはハーブ園や芝桜の花壇があり、冬から春にかけては梅や水仙、チューリップが、夏から秋にかけては、８万株のラベンダーが咲き乱れます。

スポーツエリアでは、サッカーや野球など多目的に使用できるグラウンドや、野外パーティーや各種イベントを楽しめる広場があります。なお、公園構成資材の80％はリサイクル製品が使用されています。

和泉リサイクル環境公園

（ダイベア株式会社　総務部　林 里果）